

# ポピュリズムがなぜ世界を席卷しているのか



水島 治郎 Mizushima Jiro

大学院社会科学研究院教授

専門分野：ヨーロッパ政治史、比較政治

1967年生まれ。東京大学教養学部卒業、99年、東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。博士（法学）。ライデン大学客員研究員、甲南大学法学部助教授などを経て現職。

主要著書：『反転する福祉国家—オランダモデルの光と影』（岩波書店、第15回損保ジャパン記念財団賞）、『ポピュリズムとは何か—民主主義の敵か、改革の希望か』（中公新書、第38回石橋湛山賞）、編著に『保守の比較政治学—欧州・日本の保守政党とポピュリズム』（岩波書店）など。新聞、雑誌など各種メディアでの登場多数。

## — どのような研究内容か？

2016年12月に『ポピュリズムとは何か—民主主義の敵か、改革の希望か』（中公新書）を刊行したところ、現代のポピュリズムを理解する重要な手がかりを与える本として、学界はもとよりメディアや経済界などから多大な反響をいただきました。以下、同書にまとめられた水島のポピュリズム研究について紹介します。

イギリスのEU離脱、アメリカのトランプ大統領誕生、反イスラムなどの排外主義の広がりをはじめとして、ポピュリズムは世界的に急速に拡大を続けています。「大衆迎合主義」とも訳されるポピュリズムは、民主主義とは両立しえず、民主主義が標榜する理念を根幹から脅かす存在として捉えられがちです。

これに対し本書では、民主主義vsポピュリズムという捉え方ではなく、ポピュリズムとは民主主義に内在する「内なる敵」であるという視点が提供されます。ポピュリズムには、政治から排除されてきた人々の政治参加を促し、特権的なエリート層に対抗する人民の力という側面があり、それ自体は民主主義のあるべき姿と矛盾しません。その一方で、ポピュリズムには「人民」の意思を重視するあまり、権力分立や政党、議会、司法機関といった、よき統治を実現するために必要な制度を無視し、権力濫用につながる危険性も強くあります。

社会経済格差が圧倒的に大きく、権威主義的なエリート統治が強いラテンアメリカにおける社会改革や分配を求める「解放」志向、福祉国家が発達し再分配が実施されてきたヨーロッパにおいて福祉受給者となりやすい移民・難民を排除する「抑圧」志向といったポピュリズムの多面性、登場の経緯と功罪を明らかにすることで、ポピュリズムだけでなく現代の民主主義が抱える本質的な課題に迫ろうとしています。

## — 何の役に立つ研究なのか？

2010年代半ば以降、各国で既成政党を批判して躍進したポピュリズムについては、その位置づけについていまだに議論が続いており、評者の政治的立場によっても評価が大きく分



イギリスのEU離脱、  
反イスラム、反エリート、  
トランプ米大統領誕生……

世界を揺さぶる  
「熱狂」の正体

中公新書 2410

「ポピュリズムとは何か」（中公新書）

『ポピュリズムとは何か—民主主義の敵か、改革の希望か』（中公新書）2016年12月刊行

かれるところとなっています。そこで本研究では、ポピュリズムを「人民（民衆）」に依拠してエリートを批判し、人民の意思を直接政治に反映させることを主張する急進的な改革運動と定義したうえで、その伸長の背景として「20世紀型政治の終焉」、すなわち①冷戦の終結と左右対立の変容 ②既成政党や既成団体の弱体化 ③産業構造の転換とグローバル化、移民の増加、ヨーロッパ統合の進展といった21世紀における構造変容があったことを明らかにしました。

## — 今後の計画は？

2017年度より、科学研究費・基盤研究（B）で、「グローバル・ポピュリズムの比較政治分析」の採択を代表者として受けましたので、各国政治の専門家たちと協働して日本・アメリカ・ヨーロッパのポピュリズム比較を進めています。私自

身はヨーロッパ政治の研究者ですが、この共同研究を通じ、世界のポピュリズムのダイナミズムとその含意について明らかにすることを期待しています。

#### —— 関連ウェブサイトへのリンク URL

▶ 中公新書『ポピュリズムとは何か』（2016年12月刊行）中央公論新社公式サイト

#### —— 成果を客観的に示す論文や新聞等での掲載の紹介

これまで朝日新聞・毎日新聞・読売新聞・日本経済新聞・産経新聞・東京新聞・北海道新聞・週刊東洋経済・週刊読書人・週刊文春などきわめて多数のメディアで紹介され、すでに6刷4万部となりました。また同書において、第38回石橋湛山賞（石橋湛山記念財団主宰）を受賞することとなり、2017年8月、公式発表が行われました。プレスリリースは以下の通りです。

▶ <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000066.000004767.html>

#### —— 学生や若手研究者へのメッセージ

ポピュリズムが世界的に注目されたのは2016年、イギリスのEU離脱を問う国民投票やトランプのアメリカ大統領当選の年でしたが、その年に『ポピュリズムとは何か』を刊行できたことは幸いでした。執筆を始めたのはその2年前の2014年、欧州議会選挙でポピュリズム政党が伸びた年です。この欧州議会選挙はあまり注目されませんでした。近いうちに必ずやポピュリズムが表舞台に出てくるのではないかと考え、2年かけて本書を執筆しました。常に研究では、「次」を見据えて研究対象を選択していくことが重要だと考えています。若い研究者の方々には、柔軟な発想で未来を発想していただくことを期待しています。